

<第4節終了時点順位表>

| | チーム名 | 勝 | 負 | 分 | 得 | 失 | 差 | 勝点 |
|---|--------|---|---|---|----|----|-----|----|
| 1 | 筑波大学 | 4 | 0 | 0 | 13 | 2 | +11 | 12 |
| 2 | 国士館大学 | 4 | 0 | 0 | 8 | 3 | +5 | 12 |
| 3 | 東京学芸大学 | 3 | 0 | 1 | 6 | 1 | +5 | 10 |
| 4 | 駒澤大学 | 3 | 0 | 1 | 7 | 4 | +3 | 10 |
| 5 | 日本大学 | 0 | 3 | 1 | 2 | 6 | -4 | 1 |
| 6 | 亜細亜大学 | 0 | 3 | 1 | 3 | 12 | -9 | 1 |
| 7 | 順天堂大学 | 0 | 4 | 0 | 4 | 9 | -5 | 0 |
| 8 | 中央大学 | 0 | 4 | 0 | 1 | 7 | -6 | 0 |

★得点ランキング★

| | |
|------|-----------|
| 6ゴール | 鈴木孝明(筑波大) |
| 3ゴール | 赤嶺真吾(駒大) |
| 2ゴール | 蒲原達也(国士大) |
| | 金子央朋(国士大) |
| | 山崎雅人(国士大) |
| | 岩政大樹(東学大) |
| | ほか4名 |

★アシストランキング★

| | |
|-------|-----------|
| 4アシスト | 兵働昭弘(筑波大) |
| | 養父雅仁(国士大) |
| 3アシスト | 松浦 淳(東学大) |
| | 藤本淳吾(筑波大) |
| 2アシスト | 鈴木孝明(筑波大) |
| | 金子央朋(国士大) |



今季、初出場でいきなり結果を出した関(右)。得点は執念ともいえるヘディングシュートだった



久々にボランチの位置で先発出場した田中(後)。

5月4日 14:30 アミノバイタルフィールド

駒大 2(0-1) 1 亜大 (4位・10) (8位・0)

得点者(アシスト)

- 【亜】54分:田之上亮2(平田慶大1)
- 【駒】60分:赤嶺真吾3
- 【駒】84分:関光博1(中田洋介1)

| KOMAZAWA | ASIA |
|--------------|--------------|
| GK①牧野利昭(2) | GK①金崎裕一郎(3) |
| DF④小林 亮(3) | DF⑩鈴木優太(2) |
| DF⑤鈴木祐輔(3) | DF⑩岩田耕併(4) |
| DF②桑原 靖(2) | DF⑩山本真也(1) |
| DF③筑城和人(1) | (30分)塩沢 順(2) |
| MF⑦田中信成(4) | DF⑦葛野泰祐(2) |
| MF⑩橋本早十(4) | MF⑦平田慶太(2) |
| (85分)栗原建次(3) | (66分)高橋佑次(4) |
| MF⑧中田洋介(4) | MF⑩宮地隆典(1) |
| MF⑨赤嶺真吾(2) | MF⑦奥山卓郎(2) |
| (60分)中後雅喜(3) | (62分)植田広海(1) |
| FW⑨原 一樹(1) | MF⑨若杉太(3) |
| (68分)関 光博(3) | FW⑩田之上亮(2) |
| FW⑨巻 佑樹(1) | FW⑩貞安雅昭(4) |
| S U B | S U B |
| GK②太 洋一(3) | GK②斎藤太球哉(1) |
| DF⑥廣井友信(1) | MF⑩黒岩康平(4) |
| MF⑦岩本哲也(3) | MF③高木田翼(4) |
| MF⑩中嶋裕太(3) | FW⑩吉武 亨(2) |
| MANAGER | MANAGER |
| 秋田浩一 | 坂下博之 |

警告(C)/退場(S)

- 【駒】78分:田中信成(C)
- 【中】11分:貞安雅昭(C)、45分:葛野泰祐(C)

[シュート]22:11[枠内シュート]7:4[決定機]11:5[CK]10:14
 [CK]6:1[PK]0:0[直接FK]15:14[間接FK]5:5[OS]3:4
 [支配率]52%:48%[主審]東城 稔[観衆]約480人

※上記データは全て左側の数字が駒澤。枠内シュート、決定機、支配率は本誌記者による記録

CLOSE UP

新エースから真エースへ

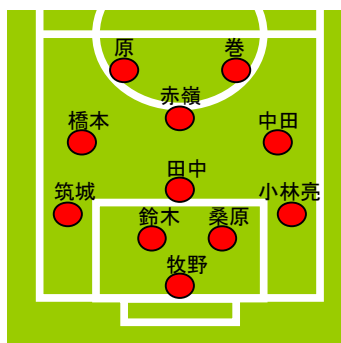
この日もチームを勝利に導く得点を決めた赤嶺真吾。今年は深井、巻の抜けた穴はでかいと言われながらも赤嶺はここまで奮闘を続けている。「毎試合1得点を目標に頑張ります」と語る新エースはここまで得点の出来なかった試合は1試合だけ。彼がいなかったら駒大はこの順位にはいないだろう。原、巻(佑)といった新戦力も着実に力をつけレギュラーを狙っている。もう、新エースなどと言ってはられない。真のエースとしてこれからもチームを引っ張ってってもらいたい。



チーム最多の3得点をあげ、ここまでチームを引っ張っている赤嶺



巻(左)の労を惜しまないプレーが駒大の逆転劇を呼び込んだ



ながらも見事に頭で合わせ、レギュラー取りに向けてその存在をアピールした。

これで、3連勝。無敗のまま上位との対戦に臨む駒大だが、「これからの3試合は今までのサッカーでは通用しない。自分達の形を取り戻してプレーしたい」(中田)というように、開幕以来未だに選手それぞれが迷いそして、模索しながらプレーしている感がある。

過去3試合、苦しみながらも勝利してきたことはこの若いチームにとって大きな経験となるだろう。さらに、初スタメンを果たした原、巻、開幕スタメンを飾った筑城ら1年生がこの時期で早くも結果を残し、勢いに乗りつつある。チームのモチベーションは高まっている。

しかし、これからの3連戦は今までと比べ、はるかに難しい試合になるであろう。勢いだけでは勝てる相手ではないだけに、チーム全体として、駒大サッカーの意識をより高め、早い段階でチームを完成させたいところだ。まずは、次節、国士戦に挑む。(森田悠介)